

一 西 だ よ り



豊川市立一宮西部小学校通信
令和 8年 1月 19日 第27号
発行;校長 村上謙一

【避難訓練】

1月9日(金)、火災を想定した避難訓練を全校で行いました。発災から集合完了までの時間は1学期が5分10秒、2学期が5分4秒、今回は4分40秒でした。2学期はザワザワした様子でしたが、今回は誰も声をだしません。みんなの成長が感じられる訓練でした。立派でした。



【プロジェクト「みんなで音楽」「逃走中」が開催!】



1月14日(水)、大空タイムに「みんなで音楽」、昼放課に「逃走中」が開催されました。企画から運営まで児童の皆さんによるものです。「失敗したらやり直せばいい」「うまくいかなかったら、それは失敗ではなく成長のチャンス」、そのくらいの意識で取り組みを重ねていってもらいたいものです。トライ＆ラーンです。今回のプロジェクトも大いにもりあがりました。

【よみきかせ】



1月14日(水)、今年最初の読み聞かせを行いました。冷たい雨が降る中、今回も大勢のボランティアのみなさんにお集まりいただきました。

【かけ足運動がはじまりました】

1月16日(金)からマラソン大会(2月3日)まで、かけあし運動に全校で取組みます。今年は水泳の授業が11月～12月末となったことで、例年から2か月遅れての開催です。勝負に向けて、あるいは強い体つくりのため、みんなで走りましょう。

【学校の多様性って?】

「社会の不確実性が高まり、多様性が進む中、これらの学校は、チーム学校としての態勢を整えて、一人ひとりの子供に寄り添える支援が必要になっている。」各校はこの趣旨を踏まえた「チーム学校」をどのようにマネジメントするのかを問われています。一西小はこれを「3年生以上の普通学級でチーム担任制に取り組むこと」に求めました。学級担任を固定せず、チーム体制にすることで、多様な価値観や考え方がある状況に、担任も多様な個性で対応しようとするものです。

教室の多様性は今、どのような状況でしょうか。文科省がHPで公開している「教育課程企画特別部会の論点整理(素案)」には、次のような記載があります。

小学校（35人学級）の様子

・特異な才能のある子供	0.8人	2.3%
・家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向がみられる子供	12.5人	35.6%
・学習面又は行動面で著しい困難を示す子供	3.6人	10.4%
・不登校	0.7人	2.1%
・不登校傾向	4.1人	11.8%
・日本語を家であまり話さない子供	1人	2.9%

日本社会は、これから世界に例がない勢いで人口減少局面を迎えます。小中学校の統廃合(全国の小学校数 1957年の2万6988校→2050年は1万3000校の見込み 時事通信社調べ)や高校・大学の定員割れ、企業の人手不足がいたるところで話題になっていることは、これから始まる社会変化の序章に過ぎないかもしれません。今後 10年、20年のレンジで考えると、これまで通りでは多くのことが立ち行かなくなるので、新しい考え方や取組を生み出すことが必然となるでしょう。このようにして、今後ますます多様性が広がっていくことが予想されます。

10年後、20年後の社会を担う子どもたちの「生きる力」を育むべき学校は、不確実性・多様性の時代にマッチした「チーム学校」をどう創っていくのか。今この手腕が問われています。一西小は多様性への対応に優位性があるチーム担任制を手段として、子供たちの主体性と当事者意識を育んで「見えない学力=生きる力」を育てようとしています。